

臨床研究：「外来吸入指導システム構築のプロセス」についての

お知らせ

刀根山病院では上記の研究を実施しています。この研究は当院の臨床研究審査委員会での承認を得て病院長の許可を得て実施しています。本研究では、研究対象者に直接文書・口頭で説明・同意をいただく必要は無いと判断していますが、情報を公開することで研究の実施について周知させていただいています。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に試料やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

1. 研究課題名： 外来吸入指導システム構築のプロセス
2. 研究責任者： 看護部長室 本城綾子
3. 研究の背景

気管支喘息や COPD の症状コントロールにおいて、吸入療法は重要です。吸入療法は、全身性の副作用が少なく、微量で効果がありますが、正しく吸入しなければ、治療効果は上がりません。現在 10 種類以上の吸入器具があり、患者様はそれらの使用方法を習得しなければなりません。しかし実際には、患者様が誤った手技で実施していたり、吸入療法を自己中断しているなどの事例があり、定期的な吸入指導の必要性が認められました。ところが、多数の吸入デバイスは、一つ一つ使用方法が異なり、医師や看護師も使用方法をつかんでいないことが現状でした。そこで、医師と協働して外来吸入指導システムを構築し、現在看護師による定期的な吸入指導が実施できるまでになりました。これらのプロセスを振り返り、評価したいと考えました。

4. 研究の目的・意義

外来吸入指導システム構築のプロセスを振り返り、評価することを目的とします。本調査により、外来吸入指導システムを改善し、システムが強固なものになれば、患者様の症状コントロールに寄与できると考えます。

5. 研究の方法

(ア) 対象となる患者様

外来吸入指導開始の2016年7月から2017年3月末に吸入指導を受けた方

(イ) 研究期間

2017年4月14日 ～ 2017年6月24日

(ウ) 利用する情報の項目と利用目的

試料：システム構築のために実施した会議の記録、使用した資料、作成したマニュアル、診療録情報

情報：疾患名、年齢、性別、症状に関する問診票（ACTまたはCAT）、吸入薬名、吸入指導受講回数、吸入指導記録

(エ) 試料や情報の管理

試料や情報は、当院のみで利用します。

6. 研究組織

この研究は、当院単独で実施されます。

7. 個人情報の取扱い

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所、生年月日など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学術集会で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

8. 問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構刀根山病院

看護部長室 本城綾子

電話：06-6853-2001 FAX：06-6853-3127

2017年5月8日 第1版